

幼稚園・保育所・認定こども園・小学校の先生と保育士のみなさんへ

博物館にはたくさんの物が展示されています。たくさんありすぎて、子どもたちと何を見よう？どんなことを話そう？と悩むというお話を聞くことがあります。そんなときに、ヒントにしてもらおうと思って作った本です。実際のみなさんの見学の様子を観察し、「ふむふむ、そんな風にお話するのか」「あれ、ちょっとここ、みんな間違えやすいのかな」などと気付かされながら、みなさんの目に触れやすいものを選んで、作りました。遠足に来るときに、先生のかばんに入りやすい虎の巻になるように、小さなサイズで作りましたが、少人数であれば、子どもたちと一緒に読むこともできるでしょう。

おおさかしりつしぜんしかくぶつかんの


これ なあに？



博物館の玄関前は、遠足の集合場所です。
ガラスの屋根からぶらさがっている。

これ なあに？





一番大きなクジラは、ナガスクジラ。
なんと大きさは、19メートル。

ザトウクジラ。大きなむなびれを
使ってぐいぐい泳ぎます。

マッコウクジラ。歯がある
クジラです。

これは クジラの ホネです。

3頭のクジラは、じつは違う種類のクジラ。親子ではありませんよ。
どこが同じか、違うか比べてみてみましょう。全部、大阪の海で見つかったクジラ、本物です。

※ホネの標本になるまでのお話を紹介した紙芝居「ナガスケ」を貸出しています。



博物館の玄関に入ってすぐに見つけた。

これなあに？

これは ナウマンゾウです。

ナウマンゾウは、およそ2万年前まで大阪でくらしていたゾウです。マンモスと似ているけれど、違います。第2展示室では、マンモスの骨とナウマンゾウの骨が並んでいるので、どこが違うか比べてみてください。第2展示室には、ナウマンゾウのさわれる歯の化石も、あります。

※ナウマンゾウの左横に並んでいるのは、ヤベオオツノジカです。貸出資料には、紙芝居「はくぶつかんの ナウマンゾウ」があります。





緑の入り口を通ると第1展示室。台所の展示で見つけた。

これ なあに？



土の中にどんぐりいっぱい。

これ なあに？



これは むかしの ひとの ごはんです。

むかしの人は、秋に集めたどんぐりを、土の中に埋めて貯めていました。すぐ前にあるどんぐりの展示では、「しぶい」「おいしい」など、どんぐりの味の説明も書いてあります。

※2階の第5展示室には、どんぐりを食べる生き物の展示があります。

※どんぐりの貸出標本セットもあります。



茶色くて、によろによろしている。

これ なあに？

これは カニの おうちです。

地面の下に、いろんなおうち。
カニは鳥に見つからないように、
おうちの中でかくれんぼします。
カニの種類によって、
おうちの様子は違います。





赤の入り口を通ると第2展示室。
むかしむかしの生き物たちが、勢ぞろいしています。

すべり台みたい。

これ
なあに？



これは コウガゾウです。

コウガゾウは、すべり台みたいな立派な牙をもっています。並んでいるほかのゾウとくらべて見てみましょう。ほかにも、今はないむかしの生き物と一緒に並んでいます。

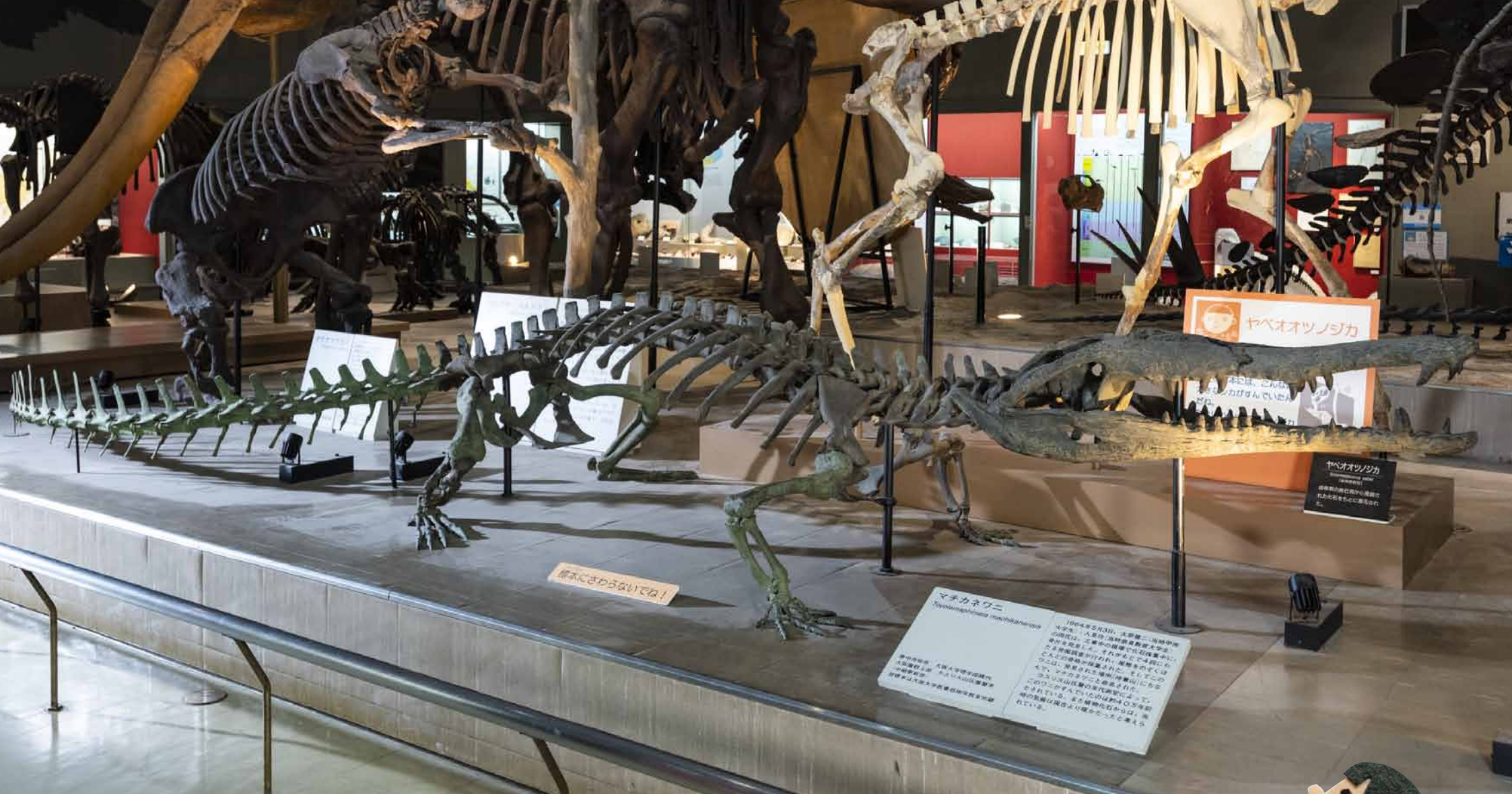
アケボノゾウ

アメリカマストドン

プテラノドン
翼を広げると最大
7メートルにもなる
翼竜。21 ページでも
登場します。

オオナマケモノ

ぐねぐね、とげとげ、とっても長い。これ なあに？



これは マチカネワニです。

むかし大阪に暮らしていたワニです。大阪府豊中市の待兼山というところで見つかったワニで、マチカネワニといいます。

※博物館のナウマンホールには、もう一つのマチカネワニの展示があります。第2展示室の階段で、2階にあがると、ナウマンホールの壁にあるマチカネワニの展示が近くで見えます。

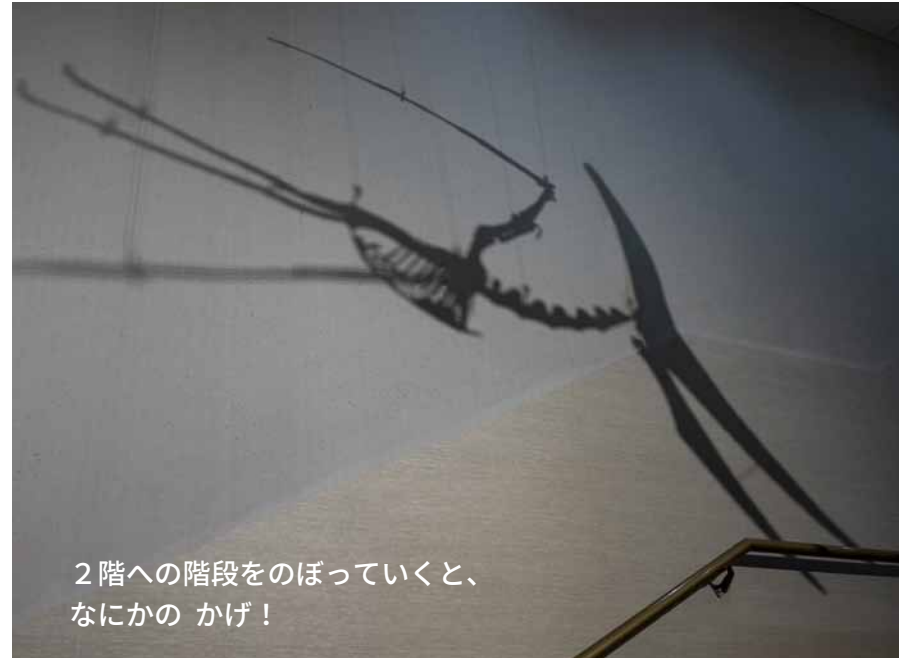


ぐるぐるぐるぐる。

これ なあに？

これは アンモナイトです。

アンモナイトは、むかしの海に暮らしていた生き物で、巻貝ではなく、イカやタコの仲間です。これは、さわれる実物標本です。第2展示室には他にもさわれる実物標本があります。



2階への階段をのぼっていくと、
なにかの かげ！

これ なあに？

答えは、17 ページにありますよ。
探してみてください。

[illegible]

Zoogeography of insects

各地理区の特徴

[illegible]

長い角があるよ。

これ
なあに？

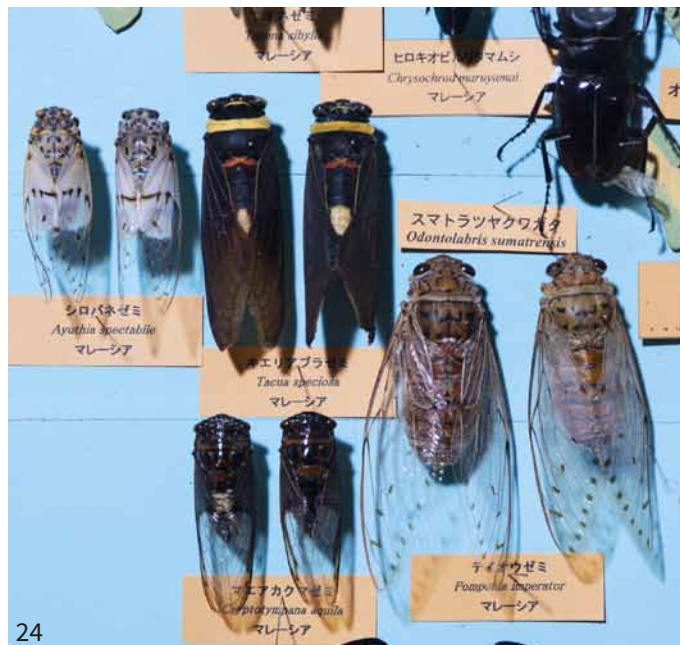
青の入り口を通ると
第3展示室。
世界中の虫たちが勢ぞろい。

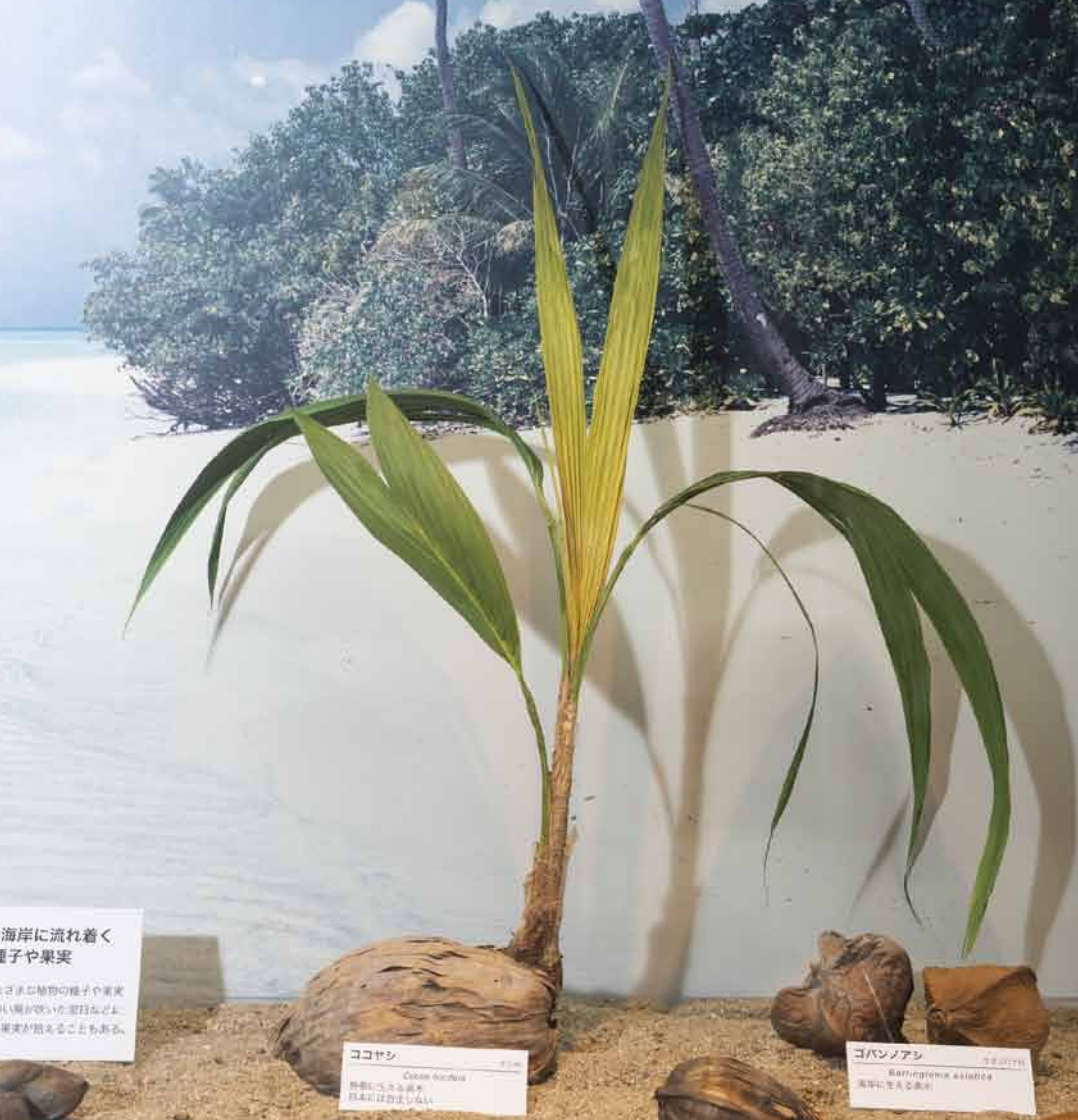


これは
ヘラクレスオオツノカブトです。



ヘラクレスオオツノカブトは、世界で一番大きなカブトムシです。
ここでは、実物の昆虫標本が世界の地図の上に展示されていて、他にもたくさんの昆虫を見ることができます。日本の昆虫も探してみましょう。





大きなはっぱが、によきと出てる。

これなあに？

これはココヤシのみです。

ココヤシの実は、水に浮かび海をただよって、遠くへと運ばれます。風に飛ばされたり、動物にくっついて運ばれたり、いろんな自然の力を使って、植物のタネは移動していきます。



ホネホネな生き物。

これなあに？

これはコウモリです。

マントのような翼には、指のホネがあります。



他にもいろんな生き物たちの
ホネが並んでいます。

これなあに？

目はどこ？
足はどんなホネかな？
比べてみましょう。

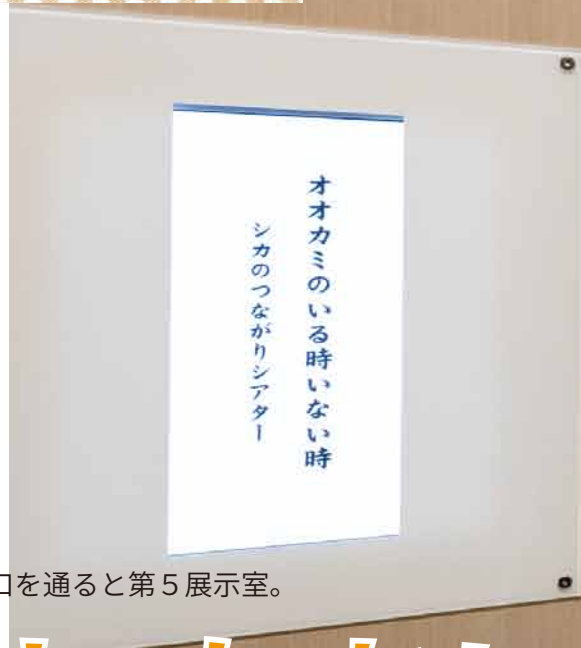
シカ

キョン
(シカのなかま)

ノウサギ

イノシシ

ヒグマ



黄色の入り口を通ると第5展示室。

オオカミのいるとき いないとき

シカのつながりシアター

これなあに？

これは シカと オオカミの にんぎょうげきです。

オオカミがいるとき、いないとき、シカたちはどうなるのでしょうか。横にお話が出てくるので、それを読んでお話してみてください。





これなあに？

博物館の中には、まだまだいっぱいありますよ。
どこにあるか探してみてください。



ネイチャースクエア
大阪の自然誌



Nature of
SAKA
오사카의 자연 大阪的自然

Osaka Museum of Natural History
오사카시립자연사박물관
大阪市立自然史博物館

大阪市立自然史博物館

博物館本館のとなりの花と緑と自然の情報センターには、大阪の自然誌展示室があります。大阪に暮らす生き物たちの標本がずらりと並ぶ、実物図鑑みたいな展示や、本のコーナーもありますよ。博物館にやってきたら、みなさん、それぞれの「これなあに？」を見つけてくださいね。

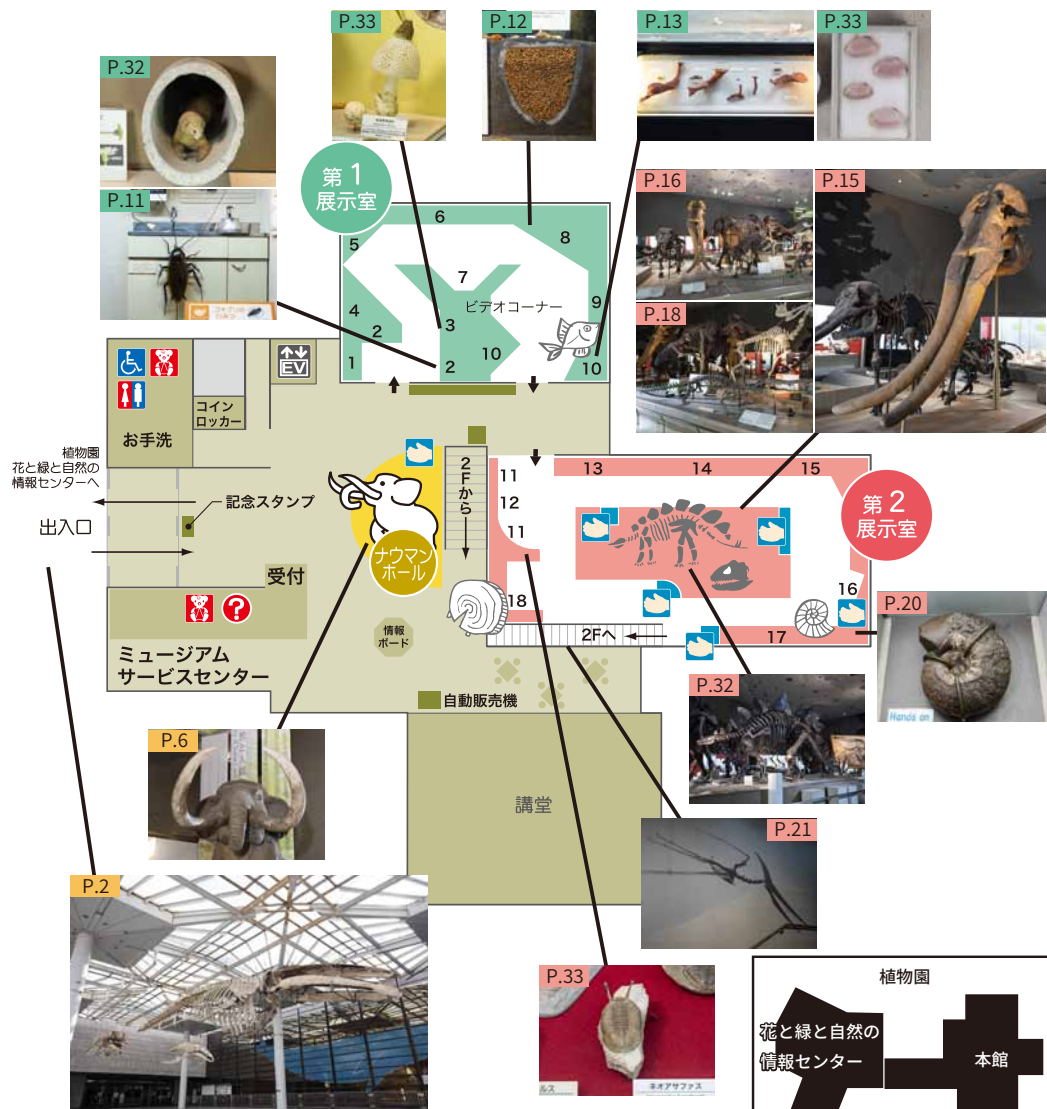




これなあに？は、 どこにあるのかな？

この本に出てきた展示物の場所を紹介します。

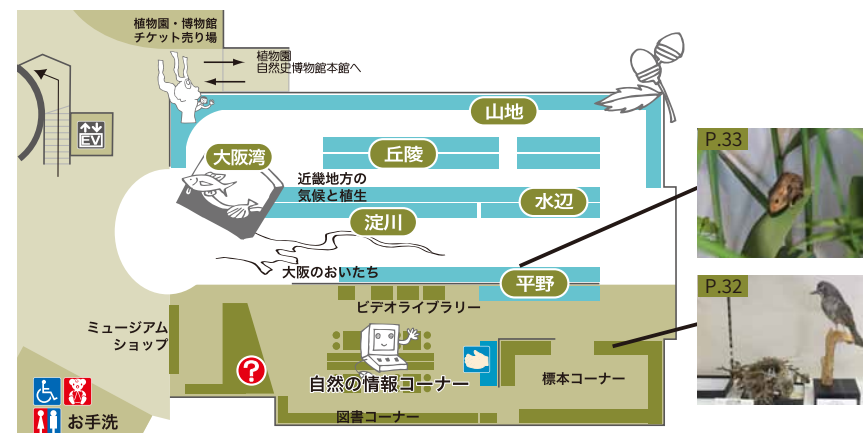
博物館（本館）1階



博物館（本館）2階



大阪の自然誌（花と緑と自然の情報センター1階）



さわれる展示があります。

遠足にやってくる 団体みなさんに こんなサポートをしています

遠足の下見説明

遠足当日の見学の手続き、見学方法など、スタッフがご紹介します。不安なことは、質問してください。下見は、博物館の開館時間中におこしください。



貸出資料もあります

事前活動に使える紙芝居や、標本など、貸出をしています。下見の時に、借りて帰って、遠足当日の返却でも大丈夫です。



幼保こども園や学校でも使える ワークシートやぬり絵などがあります



学芸員がお話をします

リクエストに合わせて、各分野の専門家である学芸員がお話します。お話の内容は、先生としっかり打ち合わせを行って、一緒に考えます。



博物館や展示物についてもっと知りたくなったら、大阪市立自然史博物館のホームページ <http://mus-nh.city.osaka.jp/> をご覧ください。博物館には、学芸員に質問できるコーナーもあります。また、子どもたちと一緒に図鑑などの本で調べてみてよいですね。

「おおさかしりつしぜんしはくぶつかんの これ なあに？」

編著：大阪市立自然史博物館 釋 知恵子

写真：ケイエスティクリエーションズ（中山英理子） 切り貼り絵：キイロノハサミ

発行：大阪市立自然史博物館 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23

印刷：アート印刷株式会社

発行日：2019年3月22日 © 大阪市立自然史博物館 2019

この冊子は、JSPS 科研費 JP16K01208 の助成を受けて作成しました。